



# SUPPORTERS

サポーターズ No.164 2024 秋号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ

<http://ypta.jp/>

会員数 947名 施設数 154 (R6.9.6現在)

「supporters (サポーターズ)」とは…

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形のsを加え、supporters：支える人たち（造語）の意味です。



一般社団法人山梨県理学療法士会 令和6年度定期総会撮影:令和6年6月12日 大木記念ホール

これを書いているのは7月下旬、猛暑のまっただなかですが、本誌が皆さんに届く頃には、涼風が心地よく吹いていることを願います。

さて本年度、当会は理事および幹事の改選期です。それに伴い組織体制が大きく改変されました。これに関しては本誌「令和6年度一般社団法人山梨県理学療法士会 定期総会」をご覧ください。

また2021に本会は創立50周年を経て、更なる歩みを始めています。つきまして本誌のテーマといたしまして、

「令和6年度定期総会を終えて～50年後の士会を見据えた組織への第一歩～」

といたしまして、会長・副会長・事務管理局長よりお話をいただきました。

会報部

## CONTENTS

令和6年度一般社団法人山梨県理学療法士会

定期総会報告 ..... 2～3

会長挨拶 令和6年度定期総会を終えて ..... 4

副会長挨拶 ..... 5～8

事務管理局長挨拶 ..... 9

活動報告 ..... 10～12

事務局からのお知らせ ..... 13～15

リレーエッセイ Part 46 ..... 16～17

原稿募集 ..... 16 編集後記 ..... 17

# 定期総会報告

組織担当副会長（前事務管理局長）有泉 静佳  
山梨県立あけぼの医療福祉センター

令和6年6月12日(水)に大木記念ホールで行われた、一般社団法人山梨県理学療法士会 令和6年度定期総会についてご報告いたします。

## 1、定足数の報告、出席者・委任状について

5月20日現在、正会員数918名に対して

- ・出席者数44名
- ・委任状数588名

よって、一般社団法人山梨県理学療法士会定款（以下、定款とします）第21条に則り総会は成立いたしました。

## 2、議事

提案されたすべての議事については、一部修正を行う部分がありましたが承認されました。

## 3、役員の変更について

本年は定款第31条1項および31条2項により、理事および監事の改選期となりました。

一般社団法人山梨県理学療法士会役員（理事・監事）候補選挙管理規定第5条に則り行われた選挙結果が三浦選挙管理委員長から報告され、定款台28条に則り総会の決議を経て新しい理事および監事が選任されましたので、この場を借りてご報告いたします。

### ・理事（敬称略）

鈴木 聡、平賀 篤、磯野 賢、有泉 静佳、大西 正紀、菊池 信、  
小林 司、山下 浩樹、鮎川 将之、高村 浩司、渡邊 修司、  
井村 順治、古屋 伴仁、上田 修

### ・監事（敬称略）

谷村 英四郎、斎藤 智雄

三科貴博副会長及び北山哲也副会長が退任され、山下浩樹先生と上田修先生が、新たに理事に就任いたしました。

また、同日行われた令和6年度第1回理事会において、磯野賢先生が代表理事（会長）に就任いたしました。

磯野会長の指名によって、副会長には、高村浩司先生、小林司先生、井村順治先生および有泉の4名が就任いたしました。

## 4、新しい組織体制について

2022年に特別委員会である士会組織検討委員会を立ち上げ（委員長：高村副会長）検討を行ってききましたが、この度、同委員会から組織改編（案）が提示され、令和6年度（総会后）からは、新しい組織体制にて運営されていくことが報告されました。

新しい組織図につきましては、当士会 HP に掲載されていますので、ご確認ください。

## 5、名誉会員について

当士会の名誉会員規定に基づき、表彰委員会から藤本欣也先生と谷村英四郎先生の2名が推薦され承認されました。

当士会では初めての名誉会員となります。

本年度の総会は令和元年度以来、実に5年ぶりに参集での開催となりました。

確かにオンラインでの開催の方が、総会を開催する側としては会場設営などの準備も要らず、参加する会員においては会場地までの移動も不要で職場や自宅で気軽に参加できるメリットがあると思います。

しかし、今回久しぶりに会員の皆様と直接お会いした中での総会は、パソコンの画面の中ではなく、リアルな感覚として士会の活動を感じることができました。

そして、ちょっと懐かしささえ感じる不思議な感覚でした。

令和6年度の定期総会につきましては、皆様のご協力のおかげで無事開催することができました。

ありがとうございました。

コロナ禍以前のようにはいきませんが、少しずつウイズコロナの時代に合わせた士会活動が今後も実施されていくと思います。

今後も士会活動へのご協力をお願いいたします。



藤本欣也先生



谷村英四郎先生

## 会長挨拶

Message from Chairman

山梨県理学療法士会 会長

磯野 賢

甲州リハビリテーション病院



山梨県理学療法士会の役員選挙・総会を経て第1回理事会にて代表理事（会長）となりました磯野賢です。今後2年間の役割をいただき、新しい組織として士会運営に臨んでいくにあたり一言ご挨拶申し上げます。また、今回のテーマが50年後を見据えた第一歩ですので、まず、その考えのもとになると思われるこの会の存在意義から私なりに考えてみたいと思います。なぜ、この会があるのか。私が理学療法士になる前からある我々の会は、一つは、勉強しようにも情報もなく、一人ではどうすればよいか分からないと言った時に、みんなで集まって勉強しようよ。また、困りごとがあればみんなに相談できる関係や機会があるといいなということで生まれたものと考えます。そしてもう一つは、自分たちの仕事を知ってもらいたい、自分たちがどんなことが出来るか、どんなに役に立てるか。そんな我々自身の存在意義を高める活動もみんなでしょうよ。一人では難しくても仲間とならできるぞ。これが我々の会ではないでしょうか。この仲間の存在、つながりそのものが、この会の原点であり、存在意義だと考えます。当初からは、時代が変わり、環境は変わりましたが、我々理学療法士という職業同様に必要とされるからそこにある。この原点・共通認識に立って、どう発展し、どう存続するかということになろうかと思えます。

そんな中で取り組まなければいけないことが、①持続可能な組織にしていくこと。②横のつながりを持って参加・協力できる組織になることだと考えます。①持続可能な組織作りを進める上ではDX化が重要です。負担を減らしながら機能強化を図ること。特に事務管理局においては、日々膨大な作業が発生しています。これを効率的に運用できるように進めていきます。強化という部分では、今回組織体制を変更し、各局1名担当理事としていたところを局によっては複数の理事が担当となりカバー体制を進め、関連する部が一体的に運用できるようしました。これは、会員サービスの向上につながるものと考えます。

②横のつながりを持って参加・協力できる組織になることでは、士会支部局を中心に、県内理学療法士の横のつながりを強化し、ネットワークの再構築を図っていきたいと思います。顔の見える関係づくりを進め、会員同士又は会員の所属機関が横のつながりを持てる組織を目指します。そしてその中で会に対する「こんな会になってほしい」・「こうしてほしい」といった期待や要望をお聞かせいただきながら進めて行きたいと思えます。

今年度も誰かがやっている士会ではなく、みんなで作る・参加する士会を目指し、「自分が所属する大切な仲間がいる場所」にしていければと思います。ご協力、ご支援のほどよろしくお願いたします。

## 副会長挨拶

Message from Vice Chairman

学術担当副会長

高村 浩司

健康科学大学



厚生労働省の「医療従事者の需給に関する検討会・理学療法士・作業療法士需給分科会」によると、理学療法士と作業療法士の供給数は、2040年には需要数の約1.5倍になると推測され、理学療法士の数はこのままいくと年々増え続け、飽和状態にあると危惧されています。

また、数の増加とともに理学療法士の将来が不安視される点としては昇給が少なく、経験年数を重ねても大きく給料が上がりにくいという現状があります。日本理学療法士協会や日本理学療法士連盟では、「教育」「職能」「学術」を柱とした理学療法士の質の向上や組織内議員を国政へ送るなど、理学療法士の職域の拡大と地位の向上をはかるべく様々な活動を行っています。

最近では診療報酬改定による処遇改善が実施され、職場によっては恩恵を受けた方もいるかと思われませんが、多くの方々の実感としてはその成果は十分なものと認識されていないのでしょうか。これらの状況は、理学療法士になりたいと考える未来の理学療法士にも影響を与えます。我々の職種を受け継ぎ、発展させてくれるはずのなり手が少なくなってくる現状は、今後の国民に対する医療サービスの低下にもつながります。

今年度、山梨県理学療法士会では、このような全国規模の問題を踏まえつつ士会の組織改編を行いました。改編の趣旨は、煩雑化する士会の業務を簡素化するだけでなく、未来に向けた理学療法士会（理学療法士）の組織力強化、職域の多角化、質の向上などを目的としたものです。

50年後の未来を創るには現在から「ありたい未来」について予測を立て「ありうる未来」に備えを進めることが大切であろうと考えます。現在、理学療法士の未来は大きな岐路に立たされています。明るい「ありたい未来」に向けたかじ取りは、役員だけで成り立つものではありません。士会員皆様のお一人おひとりのご理解とご協力が必要です。山梨県理学療法士会の未来のため、今後も一層のお力添えをお願いいたします。

## 副会長挨拶

Message from Vice Chairman

常設委員会担当副会長

小林 司

石和温泉病院



常設委員会担当副会長に就任いたしました石和温泉病院 小林司です。今年度で4期目の副会長になります。また、第44回 関東甲信越ブロック理学療法士学会 in 山梨の大会準備委員長を兼任させていただきます。

さて、今回の Supporters のテーマは～50年後の士会を見据えた組織への第一歩～であり、私が考えている山梨県理学療法士会の組織作りについてまとめていきたい。私が担当する常設委員会は、①表彰委員会・②糖尿病対策委員会・③感染症対策委員会・④訪問理学療法員会・⑤災害対策委員会・⑥認知症対策委員会・⑦がんリハ推進委員会・⑧やまなし地域リハケアを考える会の8つの委員会から構成されています。④～⑦までの委員会は、士会事業を行うと同時に山梨県作業療法士会と山梨県言語聴覚士会と協働している山梨県リハビリテーション専門職団体協議会の委員会事業にも協力しています。さらに、⑧は、3士会に加え、山梨県介護支援専門員協会と4団体で活動を行い、定期的な情報交換、年1度の合同研修会の企画を行っております。

昨年度まで、常設委員会に存在していた地域支援等推進委員会、特別支援教育委員会、働きやすい環境づくり検討委員会が無くなっていることにお気づきになりましたか。本総会で議決された令和6年度組織編成によって、地域包括ケア推進部、こども福祉部、ワークライフバランス部と新たな部となり活動していくこととなりました。各部・委員会で例年通りの事業を開催していくことがマストであり、これ以上でも以下でもない事業開催をおこなっていかないと、組織の習熟は起こらないと考えています。常設委員会から部へ。時代に沿った形で組織が変化し、それに会員が対応していくことで、50年後の一步となると信じ、任期2年を活動していきます。

最後に「今、歩むべき道」をテーマに開催された、10年前の関プロ学会。そこをスタートとして10年後の今回のテーマは「今いる場所とその先の未来へ～新時代の理学療法～」。この10年間を振り返り今後の未来について考える機会が作れば良いと企画を構成中です。2025年11月15日、16日にアピオ甲府タワー館にて開催します。全会員の参加をお待ちしております。

## 副会長挨拶

Message from Vice Chairman

組織担当副会長

有泉 静佳

山梨県立あけぼの医療福祉センター



今年度から副会長の任を拝命いたしました。

組織担当副会長として、

- ・事務管理局：総務部、財務部、渉外部、広報部、会報部
  - ・士会支部局：中西部支部、富士東部支部
  - ・特別委員会：関プロ学会準備委員会
- を、主に担当させていただきます。

昨年度までは事務管理局長として、士会運営を下支えするという意識でいましたが、今年度からは士会全体を俯瞰しつつ、与えられた役目を全うしなければと、身が引き締まる思いです。

さて、今年度から当士会の組織体制が大きく変わりました（詳しくは当士会 HP をご覧ください）。

この変更は、令和3年（2021年）に創立50周年を迎えた当士会が、次の50年に向けて動き出す第1歩として行ったものです。

先の50年（特に創成期からの約30年くらい）は、PTにとってとても良い時代で、PTは「金の卵」とまで言われ、多くの医療機関から引く手あまたでしたが、平成16年（2004年）の診療報酬改定（疾患別リハビリテーション料の導入）からPTを取り巻く環境は徐々に変わっていきました。

紙面の関係上詳細な記述はできませんが、働けど上がらない給料、増える仕事量と責任など、自分がPTになった30年以上前には想像すらできなかった状況になっています。

そのような中で、PTがPTとして働き続けていくために、当士会は職能団体として、PTの社会的価値を示す活動をしていかなければなりません。

特に少子高齢化、人口減少社会に突入した現代において、早急に取り組んでいかなければならない問題であり、それに対応していくための組織体制を構築したわけです。

しかしながら、それはあくまで組織の建付けであり、中身が伴わなくてはなりません。

そのためには、会員の皆さん1人1人の理解とご協力が不可欠です。

今後も当山梨県士会の活動へのご協力を切にお願いいたします。

## 副会長挨拶

Message from Vice Chairman

職能担当副会長

井村 順治

恵信甲府病院



今年度から副会長を拝命しました、恵信甲府病院、井村順治と申します。その責任の重大さを改めて感じておりますが、皆様のご指導をいただきながら会の発展に寄与していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、当会も創立50周年を経て、次なる50年を歩んでいます。私たちには次の50年を見据えた持続可能な組織づくりが必要と考えます。

昨今、労働生産性の向上が叫ばれており、「働き方改革」も見据えながらの対応が行われています。当会でも昨年度から「LINE ワークス」を導入しました。日常の県士会活動の効率化を図ることは、ご尽力いただいている皆さんの負担軽減や限られたリソースで最大の成果を出すために欠かせない手段です。LINE ワークス導入だけでなく、他の部分でも「DX」化をすすめていく必要があると考えます。

労働生産性の向上は別の視点からも求められています。「少子高齢化」と言われると、「高齢化」に焦点が当たりがちですが、「少子」に目を向けることも重要です。理学療法士養成校で、定員の確保が困難な状況になりつつあるという話を聞きます。山梨県リハ専門職団体協議会で「高校生1日リハビリテーション体験」を行っています。将来の理学療法士の担い手を確保するためには、さらに踏み込んだ就学支援も含めた対応が求められると思います。

また、男女問わず、子育てをしながらでも県士会の活動に参加しやすい環境を整えることも必要と考えます。研修会のオンライン・オンデマンド配信、また、WEB 会議も積極的に効率よく活用する必要があると思います。

このような内容のアンケートを昨年度末に実施しました。会員の皆さんからいただいた貴重な意見を取り入れ、「入会したい」、「参加したい」と思えるような会にしていかなければならないと思います。新しい技術は積極的に導入し、これまで諸先輩方が築きあげてきた当会の良い部分は活かしていける会にしたいと思います。

## 事務管理局長挨拶

Message from Administrative Director

事務管理局長

山下 浩樹

甲州リハビリテーション病院



この度、山梨県理学療法士会の事務管理局長を拝命いたしました、甲州リハビリテーション病院の山下浩樹と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、山梨県理学療法士会に入会し、約20年が経ちました。その間、新人教育プログラムや様々な研修や学会等、多くの学ぶ機会を山梨県理学療法士会に与えていただき、成長して今があります。今までの経験を活かし、微力ながら山梨県理学療法士会に貢献できたらと考え、今回、理事に立候補させていただきました。その結果、事務管理局長という役を拝命し、身が引き締まる思いです。前任の有泉静佳先生より引き継ぎ、その多様な内容に驚いております。日々の管理業務から、大規模なプロジェクトの計画や実行等、組織全体の運営に関わる重要な内容も含まれており、役の重さを日々感じております。また、今まで私が参加させていただいていた学術集会や研修会等では、多くの先生方がご尽力いただいていたことを垣間見ることができ、深く感謝する機会を得ることも出来ました。任期中は、山梨県理学療法士会が一層発展し、会員の皆様がより成長と躍進を遂げられますように、事務管理局長として全力でサポートしてまいります。

今回、「50年後の士会を見据えた組織への第一歩」のテーマをいただきました。就任して間もない私にとっては難しいテーマであります。しかし、山梨県理学療法士会におきましては、令和6年度定期総会が6月に行われ、そこで新たな組織が承認され、「50年後の士会を見据えた組織の第一歩」が踏み出されました。

個人的な見解になってしまいますが、50年後を見据えることは非常に難しいと思います。少子化による労働人口の減少。また、それに伴う医療従事者の人手不足や医療提供体制の縮小化。一方、高齢化による医療ニーズの増加や地域格差の拡大。新たな医療技術の進歩や AI の進化などの技術革新。環境問題やそれに伴う自然災害や新たな感染症など、多くの要素が関連し、それらが常に変化している世の中において、50年後を予測し活動を継続していかなければなりません。そして、それらの要素は予測不可能な出来事によって大きく変わる可能性も十分に考えられます。そのため、強固でありながらも柔軟性や適応性のある組織が求められると思います。その組織を作り上げていくためにも、全国の理学療法士会との情報共有や他の組織との連携も必要不可欠になります。また、未来の山梨県理学療法士会を担っていく若い先生方の成長や躍進への支援も重要と考えます。さらに今から理学療法士を目指す学生さんに対しても、魅力ある理学療法士を伝えていくことも必要と考えております。そして、地域社会における理学療法士の信頼性や責任性を高め、さまざまな職域を広げていくことも山梨県理学療法士会にとっては必要と考えております。

これからの山梨県理学療法士会の活動は、皆様方のご協力がなければ発展していかないことと思います。私自身も学び続け、皆様と共に成長していけるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 学術局 士会学術集会部



### 第26回山梨県理学療法士会学術集会

令和6年2月18日に第26回山梨県理学療法士会学術集会を約5年ぶりに対面にて開催することができました。大会長は韮崎市立病院の古屋伴仁先生、特別講演は鈴鹿医療科学大学の島中泰彦先生に「理学療法に活かす歩行分析の知識と技術」というテーマでご講演をいただきました。教育講演では、健康科学大学の三科貴博先生に「『理学療法管理学』とレジリエンス教育の必要性」というテーマにてご講演いただきました。一般口述演題は、15演題、参加者は130名でした。

当日は、受付と同じフロアに部局・委員会のブースを設け、士会員に向けて活動を紹介し、対面ならではの交流が図れたと思います。学術集会を開催するにあたり、多くの士会員の協力のもと、終わることが出来ました。引き続き、学術団体として発表が出来る場を整えていきたいと思っています。

★ お問い合わせ先：学術局士会学術集会部 宮野 将貴  
(甲府城南病院 E-mail:shikaigakujuutu.yamanashi@gmail.com)

## 前：企画局 企画研修部

### 診療報酬・介護報酬同時改定から考えるリハビリテーション部門の役割

令和6年3月10日に企画研修部主催で、『診療報酬・介護報酬同時改定から考えるリハビリテーション部門の役割』というテーマで株式会社WorkShift代表取締役の高木綾一先生にご講義いただきました。昨今の物価高騰が改定にも反映されてはいるものの、まだまだ業界としては、厳しい内容である事には変わりはないように感じました。病院、施設、など各分野での方向性の明確化、医療介護連携の促進の重要性の話を頂きました。

今後も業界のトピックスや、新規性の高い研修会を企画運営して参ります。是非多くの先生方にご参加いただけると幸いです。

★ お問い合わせ先：前：企画局企画研修部 部長 大西 健太  
(フルールむかわ)

## 前：企画局 公開講座部

### 身体の特化と学ぶ親子「カラダ」ワークショップ

令和5年度の公開講座が、令和6年3月20日に小瀬スポーツ公園補助競技場にて開催されました。コロナ禍を経て、実に5年ぶりの対面開催でしたが、(一社)ヴァンフォーレスポーツクラブとの共催で「身体の特化と学ぶ親子「カラダ」ワークショップ」のテーマのもと、小学1～6年生の親子30組60名に参加していただきました。理学療法士の仕事についての講義、走り方教室、栄養士による講義・実食、ホームゲーム前のロッカールーム見学・試合前の選手のアップ見学等々、盛沢山の内容となりました。走り方教室の途中、あいにくの雨に見舞われてしまいましたが、参加者の皆様の熱量と、スタッフの協力により無事に終えることができ、終了後のアンケートでは、「PTの仕事の内容を知ることができた」「楽しく体を動かせた」等の感想が多く寄せられました。

今年度より、事務管理局広報部が担当しますので、引き続き、皆様のご協力の程宜しくお願いいたします。



★ お問い合わせ先：前：企画局公開講座部長 上田 修  
(恵信リハビリテーション病院)

## 業務推進局 スポーツ理学療法部

### レスリング大会のメディカルサポートに参加して

令和6年6月1日、2日、小瀬スポーツ公園武道館において各地予選を勝ち抜いた男女合わせて262人による関東高等学校レスリング大会が開催されました。今回は国立スポーツ科学センター医師とスポーツ理学療法部員1日目4人、2日目5人が救護担当として対応しました。マットや救護所で2日間併せて95件と非常に多く、慌ただしい対応でした。試合中は特に衝突による出血が多くその対応には緊張の連続でした。事前に競技特性や外傷障害、出血処置の対応は実技も交えて研修を行いました。実際の現場ではわけが違います。ルール上1試合の止血対応は4分間で超過すると選手は失格となってしまいます。迅速にそして的確に処置することの難しさを改めて感じました。今回、初めてレスリング大会のメディカルサポートに参加して現場の空気を肌で感じ大変貴重な体験ができました。今回の経験を今後の対応に活かしてスポーツ分野に貢献していきたいと思っています。

業務推進局スポーツ理学療法部 湯村温泉病院 リハビリテーション部 理学療法科 柳館 匠法  
★ お問い合わせ先：業務推進局スポーツ理学療法部 小林 幸一郎  
(E-mail: kokobayashi@yamanashi.ac.jp)

## 業務推進局 スポーツ理学療法部

### U18 国際テニス大会 (2024 ITF Juniors in Japan U18)

今年の7月8日から14日、北杜市クラブヴェルデにおいてアンダー18国際テニス大会が行われ、スポーツ理学療法部員9名が日替わりでフィジオルームやコート上で行い、今回は延べ50件の対応がありました。私自身、スポーツ現場での経験が少なく不慣れなことも多いため、先輩方に教わりながら対応しました。対応した一人には前日から肩の痛みがあり、テーピングを希望され来室した選手がいました。評価した内容を考慮して、負担がかからないようにテーピングを巻きました。その選手のプレーが心配でしたが試合後にも来室し「問題なく試合ができた」と言ってくれたので、とても安心しました。スポーツ現場ではより迅速で確かな判断が求められ難しさもありますが、試合へ向かう選手の姿や思いを肌で感じることができ、自分の経験が選手をサポートできることが大変魅力的です。今後も継続的に活動へ参加し、様々な経験を積むことで、選手へ還元していきたいです。



業務推進局スポーツ理学療法部 笛吹中央病院 リハビリテーション技術科 齋藤 恵介  
★ お問い合わせ先：業務推進局スポーツ理学療法部 小林 幸一郎  
(E-mail: kokobayashi@yamanashi.ac.jp)

## 事務管理局 広報部

### 広報部発！ 介護予防・健康増進キャンペーン



令和6年7月14日にイオンモール甲府昭和にて、広報部主催による「介護予防・健康増進キャンペーン」を開催しました。このイベントは、7月17日の「理学療法の日」にあわせ、前後1週間で都道府県士会が各々の地域で県民を対象としたイベントを行っています。当士会は例年、介護や健康増進に関する相談コーナーや健康チェック、士会オリジナルグッズを配布しています。

しかし2019年よりコロナ禍の影響で地域へ赴くことができず山梨日日新聞や東京3誌へ士会の広告掲載に留まっておりました。

今年は新型コロナ「5類」移行から1年たち、5年ぶりに直接県民の皆様へ啓発活動を行うことができました。当日は3連休の中日だった事もあり大勢の参加者がいらっしました。士会のブースにも過去にない程の方々に参加していただき、多めに準備していたグッズもすべて配布することができました。

今後も県民の皆様を対象とした啓発活動に努めていきます。興味のある士会員はご協力をお願いします。



★ お問い合わせ先：事務管理局 広報部 中込 亮  
(甲州リハビリテーション病院 E-mail: nakagomi\_30fc1129@yahoo.co.jp)



## 第4回 山梨県リハビリテーション 専門職合同学術大会

### 第4回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会のお知らせ

来る2025年2月1日(土)～2月2日(日)に第4回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会が開催されます。今回は特別講演講師として山本伸一先生(日本作業療法士協会会長)、梅田聡先生(慶應義塾大学文学部心理学文学部 人文社会学科(人間関係系)教授)にご講演していただきます。前回はオンラインでの開催となりましたが、今回は対面での開催となる予定です。ぜひ奮ってご参加ください。

- ◆会期:2025年2月1日(土)～2月2日(日)
- ◆会場:ジットプラザ(〒400-0042 山梨県甲府市高畑2丁目19-2)
- ◆大会テーマ:  
「SHINKA 深化・新化・進化 ～リハビリテーションの本質を探り、新たなビジョンのスタート～」
- ◆大会長:三瀬 和彦(甲府城南病院 作業療法士)

★ お問い合わせ先：第4回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会 合同学術大会部  
山梨リハビリテーション病院 理学療法士 島田 直  
〒406-0004 笛吹市春日居町小松 855 E-Mail: shimannu030422@gmail.com

## 山梨県理学療法士会 広報局 X (旧 Twitter)

### 山梨県理学療法士会 広報局のXの フォローと拡散をお願いいたします

今期の改変に伴い、「広報局」は発展的解消をとげ、事務管理局付きとなりました。しかしながら今しばらくは「広報局」で「X」は活動したいと思います。

また士会員の皆様、是非とも「X」のアカウントを取得し、「山梨県理学療法士会 広報局」の「X」のフォローと拡散を、お願いいたします。



山梨県理学療法士会 広報局  
QRコード

広報局は各部局・委員会等より掲載したいデータを募集しています。以下の留意点に注意して広報局会報部にデータを送信してください。



- ◎お知らせ等：学会や市民講座などポスター等、画像がある場合は添付してください。
- ◎活動報告等：講習会などの聴講風景や研修会の風景、市民への活動風景等、肖像権や著作権に対し侵害しない配慮が必要です。(講習会開始時に、講演者や聴講者に撮影許可を得る。講演者にはスライドを写して良いか尋ねる等。)
- ◎動画掲載：ご相談ください。同様に肖像権や著作権に対し侵害しない配慮が必要。

データ送付先 ▶▶▶ [kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp](mailto:kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp)

## 事務管理局からのお知らせ

### ◆ 会員情報の変更手続き(異動、休会、退会、会費納入方法等)について

(公社)日本理学療法士協会HPの「マイページ」から手続きを行ってください。  
マイページにアクセスするには、協会が各個人に発行したIDとパスワードが必要です。  
[IDやパスワードがわからない]、「そもそもインターネット環境が無い」という会員の方は、  
お手数ですが日本理学療法士協会まで問い合わせをお願いします。  
(公社)日本理学療法士協会 TEL:03-5843-1747

\*会員情報につきましては、(公社)日本理学療法士協会の会員管理システムにて一括管理  
されているため、県士会では対応ができません。

### ◆ (公社)日本理学療法士協会の年会費割引制度の案内

日本理学療法士協会には年会費の「育児休業割引」、「シニア割引」、「海外会員割引」があり  
ます。  
詳細は日本理学療法士協会HP「年会費」をご覧ください。

### ◆ 会員の慶弔があった場合について

一般社団法人山梨県理学療法士会 慶弔規定に基づき対応いたします。  
山梨県士会HPの「お問い合わせ」のページ内にある「会員慶事通知フォーム」、「会員弔事通  
知フォーム」からお願いします。

### ◆ 事務管理局への問い合わせについて

6月より、事務管理局が甲州リハビリテーション病院 理学療法科内に異動となりました。  
お問い合わせは、山梨県士会HPの「お問い合わせ」のページ内にある「事務管理局メー  
ルフォーム」からお願いいたします。

\*インターネット環境がない会員の方は、

甲州リハビリテーション病院 理学療法科内 担当 山下  
TEL:055-262-3121(甲州リハビリテーション病院)までお願いします。

### ◆ メール配信について、アドレス登録のお願い

士会では研修会の通知や情報提供をメール配信にて行っています。  
会員の皆様には、アドレス登録についてご協力いただきますようお願いいたします。

- ・登録メールアドレスは1会員1アドレスでお願いします。
- ・一度登録したアドレスを変更する場合は、登録解除フォームにて登録メールを解除後  
に、新しいアドレスを登録しなおしてください。

### メール登録フォームURL:

[http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showRegisterForm?  
gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf](http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showRegisterForm?gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf)



### 登録メール解除フォームURL:

[http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showUnregisterForm?  
gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf](http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showUnregisterForm?gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf)



### \* 会員番号について

一部の先生から会員番号について問い合わせがきています。  
会員番号は日本理学療法士協会と共通になっております。  
会員カードに記載されている8桁の番号になります。  
理学療法士免許の登録番号ではありません。

ここに記載されている8桁の番号です



### ◆ アドレス登録をしたのにメールが届かない場合

メール配信を開始後、エラーメールになるアドレスが一定数あります。その多くのメール  
アドレスが、スマートフォンのキャリアメールだと思われます。

@以下が、“[docomo.ne.jp](mailto:docomo.ne.jp)”、“[ezweb.ne.jp](mailto:ezweb.ne.jp)”、“[i.softbank.jp](mailto:i.softbank.jp)”、のアドレスの先生方  
です。スマートフォンのキャリアメールでは、スマートフォン自体の設定や契約内容によって  
特定のメールが受け取れない事例があるようです(インターネット検索をするとそのような  
事例が多数報告されています)。

また、メール本文には詳細な案内が掲載されている当士会HPのURLが記載されており、そ  
のURLをタップすることでメール配信画面から当士会HPに移動するようになっています。

この仕組みが、特定のサイトに誘導するフィッシングメール等の詐欺メールと判断され、  
ブロックされている事例も散見されます。

さらに、登録したメールアドレス自体が間違っている事例もこれまでに多数ありました。  
アドレス登録をしたのにメール配信が届かない先生方におかれましては、いま一度設定を確  
認していただければと思います。

一方で、ヤフーメールやGメールなどには確実に届いているようです。

\*令和5年4月1日から7月10日までのメール配信数は15件です。





途絶えることのないバトンを君に /

# リレーエッセイ

『リレーエッセイ』とは…

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前の Supporters にあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということ、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

リレーエッセイ

## Part 46-1

石和温泉病院 関野 真士

貢川整形外科病院の小林裕司先生よりバトンを引き継ぎました石和温泉病院の関野真士です。

来年度の令和7年11月15日（土）～16日（日）に第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会が山梨で開催されます。浅学非才の私ではありますが、今回総務部長の役に任命されました。



前回の山梨開催から10年が経ち、私たちを取り巻く医療制度も生活環境もさまざまな変化がありました。そんな10年を振り返り、そしてこれからの理学療法の未来に繋げていきたい、そんな大会になることを目指して、企画・運営をしていきたいと思ひます。対面での開催のため、これまでコロナ禍でなかなか会うことのできなかったかつての仲間や同級生に会うことができる機会でもあると思ひます。皆様のご参加をお待ちしています。みんなで山梨開催を盛り上げていきましょう！

今回は、貢川整形外科病院の田中博文先生にバトンをお渡しします。よろしくお願ひします。

## 原稿を募集しています！

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

● 問い合わせ先：事務管理局 会報部 宇月 正明  
春日居総合リハビリテーション病院  
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366  
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※ 第165号発行は、2025年3月を予定しています。

原稿の締め切りは

**1月中旬です。**

リレーエッセイ

## Part 46-2

笹本整形外科 手塚 尚輝



木下整形外科クリニックの手塚武士先生からバトンを受けました笹本整形外科の手塚尚輝です。

私は回復期リハ棟での経験を経て、現在の外来リハ業務をしています。理学療法士5年目に主任になり専門業務以外の場面でも多くの経験もでき日々勉強することばかりです。今の立場になって感じることは患者様との関わり方、スタッフやリハビ科をどう成長させていきたいかなどマニュアル的なことだけではなく「自分らしさ」を持つことだと思います。どんな職業でもどこかで“人のため”になるものだと思いますが、私はその中でも理学療法士は直接人と関わる象徴的な職業だと感じます。だからこそ「自分らしさ」を持ち続け、またスタッフにも各々の強みを持ってもらい、リハビ科として一度でも来て良かったと思ってもらえるようなリハビ科がある笹本整形外科を目指していきたいと思ひしております。

今回は小規模多機能ホーム昭和の芦川聡宏先生にバトンをお渡しします。

## 編集後記



7・8月の台風・豪雨にて被災された方へ心よりお見舞い申し上げます。そして全ての医療・福祉に従事している方々と、お忙しい中、快く執筆をいただいた諸先生方に感謝申し上げます。

さて Wilder Penfieldらの「運動ホムンクルス」モデルから85年、Evan Gordonらは、様々な年齢の人の安静時と課題遂行時の fMRI データを収集し、2022年に「Integrate-isolate model」を完成させ、翌年4月20日、Natureに論文「A somato-cognitive network alternates with effector regions in motor cortex」が掲載された。体性認知行動ネットワーク…。またしても1年も知るのが遅い、悔しい。

また会報誌発行の際には引き続きご協力お願いいたします。

宇月 正明

- 【発行】 一般社団法人 山梨県理学療法士会
- 【代表】 磯野 賢
- 【企画・校正】 宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 清水 真琴
- 【編集・印刷】 株式会社 たけまる
- 【会報部】 〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436  
医療法人 景雲会 春日居総合リハビリテーション病院  
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366  
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



